

日々発展する国境の都市

マレー半島最南端にあるジョホール州。私たちの住んでいるジョホールバルはその州都で、人口約一〇〇万というマレーシア第二の都市。隣国シンガポールは海の方こう約一五〇〇キロとまさに目と鼻の先にある。国境の橋「コーズウエー」はマレーシアとシンガポールを行き来する両国の人々で混雑する。「もの」と「人」との交流豊かな我が街ジョホールバルは日々発展を

校舎と全校児童生徒



市街地 海の方こうはシンガポール

ジョホール日本人学校

●マレーシア●

し続けている。

またジョホールバルといえば、日本にとつて「サッカーの聖地」の一つでもある。一九九八年のサッカーW杯フランス大会出場を決めた「ジョホールバルの歓喜」は当地のラーキン・スタジアムでの出来事だった。

教育熱が高いジョホール

現地の教育で特筆すべきは教育熱の高さである。市街地にも郊外にも学校が林立し、夕方には塾通いの子が往來を闊歩する。途上国で見かけるような物乞いをする子どもたちに出会うことはない。保護者の愛の中、皆すくすくと育っている。

現地の講師による英会話の授業



現地校を訪問すると、マレー系、中国系、インド系の子どもたちが、宗教や生活習慣の違いを乗り越え、互いに認め合う雰囲気醸し出している。

互いの「違い」を「違い」としてしっかり認識し、相手の主義・信条を大切にします。

「寛容性ある風土」の中で、日本人としての生き方・国際人としての生き方を学ぶことができるよい環境である。

本校の特色

本校は、一九九六年創立のマレーシア国内で最も新しい日本人学校。本年度創立十二年目を迎えた。

本校の教育理念「暑さの厳しい自然の中で、しなやかに成長している草木のように、個性豊かでたくましく、豊かな人間性と国際感覚を備え、世界に羽ばたく子どもの育成を図る」をもととして、毎年、特色ある活動を展開してきている。その例をいくつか挙げる。

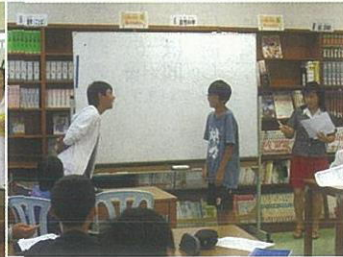
一つ目は、子どもたちが自主的に進める活動。運動会、ペスタクラブ(学習発表会)等の大イベントから日本人墓地清掃のよう



小学部3年 社会科 中央郵便局見学



小学部サッカー部



交流に備え現地職員から中国語を伝授



中学部2年 技術家庭
コンピューター（錫製品）作成実習

— 中学部 総合 —

The Japanese School of Johor

URL <http://www.japanclub.org.my/jsj/>

児童生徒数 小=100人 中学部=25人

子どもたちから

この学校では、国と交流でローカルの学校の友達と交流したり、ペスタクラパでダンスの発表をしたりすることが楽しいです。小4

マレーシアの日本人学校は、フタバ、ワシとオキソウがあるよ。マンティンには太陽が照らされると、ちよとキラキラするよ。小4

先輩後輩の上下関係があまり無く、みんなが自分の意見を持っています。(中2)

二つ目は、現地校との交流学習。小・中とも、近隣の小・中学校との交流を毎年進めている。目指すは「双方向性のある交流」で、互いの伝統遊びや文化を紹介する活動の中で対話力や共感する力を着実に身につけていく。

な小行事に至るまで、運営・進行に子どもたちが大きくかかわることにより、責任感や問題解決能力がたくましく育っている。また小・中併設という利点を生かし、縦割り班による活動を活性化させることで、よりよい人間関係をつくる力を養うことができる。



手づくりカレールー「おいしい！」
年3回のカレールー曜日

けている。

三つ目は現地教材を生かした授業。教師がフィールドワークで見つけた現地素材を授業教材として生かし、学習効果を上げている。

四つ目は、主体的なPTA活動。年に三回のカレールー曜日は、保護者のかたがたが本校家庭科室でカレールーを手づくり。子どもたちは持参したごはんや熱々のカレールーをかけたもらい「いただきます」という素敵なイベント。アンパンマンの着ぐるみを着たお母さんがカレールーを配る様子に子どもたちは感動！ほかにも周到な準備をもとにして昼休みに行われる「百人一首の会」や「お話の会」などを通して、子どもたちはお母さん、お父さんたちから積極的に行動することの「かつこよさ」を学んでいる。

(二〇〇八年六月現在)



小学部1・2年 総合 マレー系小学校との交流